

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

**達成度（評価）**  
**A**：十分達成できている  
**B**：おおむね達成できている  
**C**：やや不十分である  
**D**：不十分である

学校名	唐津市立高峰中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学力向上アクションプラン」を活用した授業づくりを校内研修や中学校部会を通して職員に共通理解を図り、組織した授業づくりが実現することができた。家庭学習については、定期的なアンケートや具体的な実践結果を基に習慣化を図ることが必要である。</li> <li>・学力向上については、「唐津の学びスタイル」を基に、部会学習計画表の活用と授業の工夫と取り組んだ。「唐津の学びスタイル」の重点項目を明確、設定し、授業改善に取り組んだ。学習目標を設定して授業を行ってきた。今後、学習の意識化を図るために、教師の役割について再確認し、教師が「つなぐ」、「もどす」活動を取り入れる等、校内研究を進めていく必要がある。</li> <li>・生徒に「ほめる」ことを意識して教師が指導したことで、生徒の自己肯定感が高まり、人権意識の向上につながった。また、人権同和教育担当が、担任と連携し、計画的に研究授業を行ったことで、生徒や職員の人権意識の向上を図ることができた。</li> <li>・実行委員会形式で生徒主体による学校行事の運営を推進した。そのため、生徒の主体性の伸長につながったが、生徒への支援の在り方や生徒の自主性を育てる手法等について今後、検討していきながら、次年度も継続していきたい。</li> <li>・組織的な対応を行ったことで、校務の効率化を推進し、職員の働き方改革への意識を高めることができた。さらに校務分掌において負担の平準化を図り、勤務時間の適正化につなげていきたい。</li> </ul>

2 学校教育目標	<p>自ら求めて動く「高峰っ子」の育成</p> <p>～ 「主体性」・「思いやり」・「協働」・「自己発信」 ～</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>①分かる、できる授業の構築と豊かな学力の育成（キャリア教育・学力向上）</p> <p>②行事における生徒会活動などの活性化（実行委員会）</p> <p>③業務改善と働き方改革の推進</p> <p>④地域に関わった学校づくり（授業公開・講演会・各種行事・学校たより等）</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全職員による共通理解と共通実践</li> <li>○生徒自身が、自分の考えをまとめ・発表し、質問を受け止め、より深い思考へと発展させるための授業実践</li> <li>○学習意欲を高め、主体的な家庭学習による習慣化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「授業に興味ある学びが増え、授業が楽しいと感じる」肯定的な回答の割合が生徒70%以上</li> <li>○「学級(クラス)の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」肯定的な回答の割合が生徒80%以上</li> <li>○「家庭で毎日主体的に学習に取り組むことができている」肯定的な回答の割合が生徒80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の知的好奇心やキャリア教育の充実により進路意識を高め、学習意欲を向上させる。</li> <li>・校内研修等で「唐津の学びスタイル」や「ラーニングマウンテン」を共通実践し、主体的な学びを推進する。</li> <li>・課題の質や量を考慮し、提示の仕方を工夫し、家庭学習を主体的に取り組む生徒を育成する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTによる学びの振り返りやキャリア教育の充実により進路意識を高め、学習意欲を向上させる。</li> <li>・授業が楽しいと感じる」と肯定的に回答した生徒の割合は85%、「学級(クラス)の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と肯定的に回答した生徒の割合は80%であった。</li> <li>・小中連携して家庭学習調査や英検や漢字検定受験を啓発して取り組むことができた。しかし、「家庭で毎日主体的に学習に取り組むことができている」と肯定的に回答した生徒の割合は73%であったので、今後もさらに家庭との連携を深め、生徒の主体性を育むよう工夫していきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器による振り返りの実施や、家庭と連携した家庭学習習慣づくりの取り組みにより、学び合う意欲が伸び、習慣化の効果があらわれ、授業に対する、自ら学ぶようになる生徒が増えてきている。</li> <li>・英語検定や漢字検定などの検定試験に意欲的に取り組む生徒が増え、資格取得による意欲増進の効果が現れた。</li> <li>・興味ある学びが増え授業が楽しくなったり、話し合い活動を通して、学習意欲が1月調査より4ポイント以上高くなっている。引き続き、知識定着のための繰り返し学習の習慣を付けさせることが必要であると考えられる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方が授業を工夫されているのもよく分かった。引き続き、取組をお願いしたい。</li> <li>・家庭学習については、保護者と生徒の温度差があるが、アンケート結果も次第に改善されているが、継続した取組をお願いしたい。</li> </ul>	
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感謝する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</li> <li>●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実</li> <li>●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「友達に対して思いやる態度で接している」と肯定的な回答の割合が生徒80%以上</li> <li>○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると肯定的な回答の割合が教員80%以上</li> <li>●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上</li> <li>●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答の割合が生徒75%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科の授業に関する資料をまとめ、指導法を工夫・改善し、成果を共有する。</li> <li>・保護者や地域の方と連携した職場体験や産業体験を通して、郷土愛を育む。</li> <li>・学校行事等の振り返りを必ず行い、自己理解を深め、他者との協働を通して自己有用感を高め、思いやりや社会性を育む。</li> <li>・全職員で登下校の指導等を行い、生徒の安全確保の見守り活動を行っている。また、日没を考慮したスクールバスの出発時刻を見直し、毎月「月のこころ」を実施したり、気になる生徒は会議の中で情報共有を行うこととして、「組織的に対応している」と肯定的に回答した教員が100%であった。今後も気になることは、データで共有し、個に応じた指導を行ってきたい。</li> <li>・全職員で登下校の指導等を行い、生徒の安全確保の見守り活動を行っている。また、日没を考慮したスクールバスの出発時刻を見直し、毎月「月のこころ」を実施したり、気になる生徒は会議の中で情報共有を行うこととして、「組織的に対応している」と肯定的に回答した教員が100%であった。今後も気になることは、データで共有し、個に応じた指導を行ってきたい。</li> <li>・「将来の夢や目標を持っている」と肯定的に回答した生徒の割合が90%であった。数値目標を上回っていたが、「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒の割合が68%であった。さらに進路学習に力を入れていきたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の道徳で使った資料をフォルダにまとめ、職員間で共有できるようにすることができた。また、県の道徳研究会の情報を職員間で共有して指導力の向上につなげた。「友人に対して思いやりのある態度で接している」と肯定的に回答した生徒の割合が95%であったので、今後も生徒に役割を与え、主体的な学校行事等を通して「振り返り(承認)」を行うことで豊かな心の醸成につなげていきたい。</li> <li>・全職員で登下校の指導等を行い、生徒の安全確保の見守り活動を行っている。また、日没を考慮したスクールバスの出発時刻を見直し、毎月「月のこころ」を実施したり、気になる生徒は会議の中で情報共有を行うこととして、「組織的に対応している」と肯定的に回答した教員が100%であった。今後も気になることは、データで共有し、個に応じた指導を行ってきたい。</li> <li>・生徒が計画・運営・発表等が行える学校行事を確保することによって、生徒の自主性や自己肯定感を高め、目標をもって活動しそれを実現する達成感を味わわせることができた。</li> <li>・「将来の夢や希望を持っている」と回答した生徒の割合が1月の調査では80%となり、12月の調査より12ポイント増加した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳を柱として多様性を意識した体験活動や講話は実施され、とても良いことだと思う。また、授業等で人権同和教育を推進されている取組がよく分かった。</li> <li>・生徒にきめ細かな対応ができている。また、必要に応じて外部の専門機関等と連携をしていることが分かった。今後とも組織で迅速に対応し、個に応じた指導をお願いしたい。</li> <li>・日頃から善悪の判断や思いやりの心をもつような指導を続けてほしい。</li> <li>・マナー検定やキャリア教育を充実させたことで、場や時に応じたあいさつや自己発信力がついてきている。自分を認識し、将来どのような進路をとるべきか考えることにつながっている。夢をもつことが正しい時代と思うのだが、アンケート結果から7割の生徒が夢や目標をもって、学校生活を送ることができていることは素晴らしいことである。</li> </ul>			
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「健康に良い食事をしている」と肯定的な割合生徒70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動部活動や地域クラブ活動への参加を促し、運動習慣の育成を図る。</li> <li>・昼休みに体育館開放やグラウンド開放を行い、運動に親しみ基盤づくりを行う。</li> <li>・給食日より、保健だよりを発行する。</li> <li>・保健体育科担当と食育担当との連携を進める。</li> <li>・栄養教諭と連携し食育資料の情報を発信する。</li> <li>・教科等と連携した食に関する指導に取り組む。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動部活動への入部や社会体育での活動を促す声かけを実施し、運動部活動や地域クラブ活動に加入した生徒は87%であった。今後も継続して取り組む。</li> <li>・1週間中420分以上の運動に取り組んでいる生徒は81%であった。調査期間が中3の部活引退後であり、冬季の活動時間となっているため、1週間の運動時間が短く傾向になっていることが推測される。</li> <li>・夏休み明けの体育館やグラウンドの開放で多くの生徒が運動に取り組んでいる。また、今年度は生徒会活動の中で、全校生徒が部活タイムに取り組むなどの活動も見られ、運動に親しみ基盤づくりになっている。</li> <li>・保健だより・給食だよりについては発行できた。栄養教諭が来校する際は協力し、給食時間の巡回指導や情報交換をすることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月に1年1部活動時間が冬季時間から春季時間へ移行したこともあり、1週間当たりの運動時間は増えている。3月以降は、さらに運動時間が確保される。</li> <li>・昼休みの運動の様子については、多くの生徒が運動に親んでいる。さらに小学生と遊ぶ姿も見られており、小中のつながりを感じさせる。一方で、発達段階の差もあり、怪我等の問題も見られるため、今後も活動の場を確保する必要がある。</li> <li>・保健だより・給食だよりについては発行できた。給食週間は、児童生徒から給食センターへの感謝の手紙を送ることができた。</li> <li>・栄養教諭の来校する時は、一緒に給食時間の巡回を行うことができた。給食量の件などの情報交換もすることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や昼休み等で生徒は体を動かすし、学ぶことが好きな生徒が多いことが分かった。また、健康や食育の指導等については、しっかり指導してもらっている。家庭の意識も向上している。</li> </ul>	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育委員会規則に据える時間外在校等時間の上限を遵守する。</li> <li>●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上</li> <li>○協働的な体制づくりによる組織力の向上。「私は組織に貢献している」という肯定的な割合が90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退勤日の設定と計画的に年休取得ができる職場の雰囲気づくりを行う。</li> <li>・部活動練習計画表を活用し、計画的な部活動休業日の設定する。</li> <li>・校務のデータ化及びICT活用による時間外勤務の適正化を行う。</li> <li>・定期的な会議による情報の共有・共通理解の促進と早期課題対応を組織的にを行い、業務の効率化を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員の効率化や毎月、練習と学校行事とのバランスを図り、部活動練習を計画的に休業日を設定して保護者に周知を図ることができた。また、長期休暇には年休の取得を促し、課業日中業務が終了するよう計画的に会議で打ち合わせをし、休みやすい雰囲気づくりを行った。</li> <li>・「私は組織に貢献している」と肯定的に回答した教員の割合が100%である。定期的な会議で組織的に情報共有を共通実践できる体制が整備されたためである。さらに職員間で声かけや業務の可視化を進め、主体的な組織運営を促進する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務分掌に係る業務や生徒指導に関することICTにより可視化を行い、定期的な情報交換を通して早期対応・早期解決を図ることができた。</li> <li>・長期休業中に年休の取得ができやすくなるよう、研修会等を通じて、全員の帰社に努めた。また、月45時間以上の時間外勤務の意識を向上させた。</li> <li>・職員室内の会議で気がなることは、ちょっとした時間を活用し、情報共有ができた。また、校務分掌も連携し、組織的に課題解決することができた。「私は組織に貢献している」と肯定的に回答した教員の割合が100%である。今後も職員間で声かけを促し、納得感を高め、主体的な組織運営を促進する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織力の向上で校務改善が進み、先生方の負担も改善されてきているが、生徒の教育環境を豊かにするために、先生方が働きやすい環境を継続して整えてほしい。また、先生方も業務だとは思いますが、健康にはくれぐれも留意してほしい。</li> <li>・先生方が自分の役割を自覚して校務を遂行されていることが分かった。</li> </ul>	
●特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員の専門性と意識の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「特別支援に関する専門性が向上したと思う」と回答した教員80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回以上の「生活打ち合わせ」等により生徒の情報共有し、対応する。</li> <li>・学期に1回「特別支援教育支援会議」を開催し、学校の様子や保護者の願い等を情報共有し対応する。</li> <li>・特別支援に関する研修会を2回以上実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週の職員連絡会や関係機関と連携し、ケース会議を開催することで、多くの視点からアプローチを考えた。そのため、全生徒に対して組織的に適切な支援と対応することができた。</li> <li>・小学校と小中連携で特別支援に関する研修会を実施して、個に応じた指導法等の知識を深めた。「専門性を向上させることができた」と肯定的に回答した教員の割合が100%であった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週の職員連絡会や日家の情報交換を行ったり、関係機関と連携しケース会議を開催したりすることで、多くの視点からアプローチを考えた。そのため、全生徒に対して組織的に適切な支援と対応することができた。</li> <li>・小学校と小中連携で特別支援に関する研修会を実施して、個に応じた指導法等の知識を深めた。「専門性を向上させることができた」と肯定的に回答した教員の割合が100%であった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが人を思いやる気持ちを持ち、すべての生徒もいきいきと学校生活が送れるよう今後も細やかなご指導をお願いしたい。</li> </ul>	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事や体験活動と関連付けて、課題発見、調査、まとめ、発表の過程を経て、社会人に必要なスキルを獲得するための教育活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事や体験学習を基に、生徒全員がグループで協働して発表を行い、質疑を繰り返して、「自分の発表は満足である」と肯定的な回答の割合が80%以上</li> <li>○スピーチ集会やマナー検定で、自己理解・自己認識を高め、自己表現力を育成する。「自分の考えを周りの人に分かりやすく伝えることができる」と肯定的な割合が80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の主体性を高めるキャリア・マナー検定を実施し、キャリアスキルの向上を図る。</li> <li>・定期的なスピーチ集会を実施する。</li> <li>・授業等におけるキャリア教育の資質・能力を高める学習場面の洗い出しと重点化を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチ集会に向けて、自分の体験や思いを分かりやすく伝えようとする意識が高まった。12月の調査では「自分の考えを周りにわかりやすく伝えることができる」と肯定的に回答している生徒の割合が66%であった。しかし、3年生では肯定的に回答した生徒の割合が86%であったので、中学校3年間の考えを取り組んだ成果として、表現力を高めることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マナー検定やスピーチ集会を計画的に行い、将来について考える機会を持たせることができ、進路についての意識が高まった。</li> <li>・スピーチ集会ではプレゼンテーションソフトを使って、スピーチ内容を視覚的にも伝わりやすくなるように、自己表現の方法を工夫していた。その結果、「スピーチ集会等での発表は満足している」と回答した生徒の割合が75%となり、11月の調査より6ポイント増加した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人として他の人と接する上で大切なことを計画的・組織的に学習していることが素晴らしい。</li> <li>・自分の考えを多くの人の前で発表する機会が多い分、自己表現力の向上につながっている。今後とも好きな事や興味のある事から、目標をもってほしい。また、将来のことを考えるきっかけづくりを学校にぜひ、お願いしたい。</li> </ul>	
○特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の主体的活動の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「生徒会活動を中心に学校生活を充実させよう努力している」と回答する生徒85%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒実行委員会による学校行事の実施し、自己肯定感を高める。</li> <li>・生徒が主体的に取り組む生徒会活動の充実を図る。</li> <li>・生徒会本部と連携した専門部活動の充実を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の準備や運営を、生徒が主体的に行うことができた。12月の調査では「生徒会活動を中心に学校生活を充実させるよう努力している」と肯定的に回答している生徒の割合が83%で、数値目標をほぼ達成することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や日々の活動を計画し、実施するにあたり、生徒会役員や実行委員会を中心に、生徒が主体となって行えるよう仕組み、実行できた。その結果、「生徒会活動を中心に学校生活を充実させるよう努力している」と肯定的に回答している生徒の割合が86%となった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に活躍する場をいろんな場面でこれらも多く作ってほしい。</li> <li>・生徒に出番や役割を与え、生徒一人一人が満足できる場の設定をこれからもお願いしたい。</li> </ul>	

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ○…志と誇りを高める教育</p> <p>・小中連携による校内研修を通して共通理解を図り、成果や課題を可視化することができた。また、小中合同の学校行事開催等で明確な「職場づくり」につながった。家庭学習については、生徒や保護者に家庭学習の啓発を図り、定期的なアンケートや具体的な実践結果を基に習慣化を図ることが必要である。</p> <p>・学力向上については、「唐津の学びスタイル」を基に、授業を行い、ICT活用による振り返りを実施し、夕夕認知を高め、家庭学習の充実を努めた。「唐津の学びスタイル」の重点項目を明確、設定し、授業改善に取り組んだ。今後、学習の意識化を図るために、教師の役割について再確認し、「つなぐ」、「もどす」活動を取り入れる等、より一層小中連携を深めさせ、生徒の実態や発達段階に応じた校内研修を進めていく必要がある。</p> <p>・生徒に「ほめる」ことを意識して教師が指導したことで、生徒の自己肯定感が高まり、人権意識の向上につながった。また、人権同和教育担当が、担任と連携し、計画的に研究授業を行ったことで、生徒や職員の人権意識の向上を図ることができた。</p> <p>・実行委員会形式で生徒主体による学校行事の運営を推進した。そのため、生徒の主体性の伸長につながったが、生徒への支援の在り方や生徒の自主性を育てる手法等について今後、検討していきながら、次年度も継続していきたい。</p> <p>・常に組織的な対応を行ったことで、校務の効率化を推進し、職員の働き方改革への意識を高めることができた。さらに校務分掌において負担の平準化を図り、勤務時間の適正化につなげていきたい。</p> <p>・健康・体づくりについては、小中連携して「がん教育総合支援事業」に取り組むたい。</p>
----------------	--